

新評論

 2019
10
No.297

 発行所 © 新評論 2019年
〒169-0051 新宿区西早稲田3-16-28
TEL03-3202-7391 FAX03-3202-5832
http://www.shinhyoron.co.jp
e-mail: shrn@shinhyoron.co.jp
振替 00160-1-113487 価格税抜

いま世を騒がせている問題は、1世紀前にすでに問題だった!
池上彰氏が絶賛、閉塞打開の鍵を歴史に探るシリーズ最新作。

100年前から見た21世紀の日本

大正人からのメッセージ

大倉幸宏

◆ジャンル:社会

長時間労働、政治家の資質低下、教師による体罰、女性差別、フェイクニュースの氾濫、なりすまし詐欺、若者の活字離れ……。

いずれも、昨今注目されているテーマである。現在の日本社会が抱える問題として、その解決が求められていることは言うまでもない。ただ、これらは決して「現在」という枠に収まるテーマではないことも事実である。実際、右記のテーマは、一〇〇年前の日本でも議論されており、その解決の必要性が叫ばれていたのだ。

本書は、現在の日本を歴史的視点から捉え直すことを目的としている。その際に視座を置いたのが一〇〇年前、すなわち大正時代である。

日本の近代について、明治から大正、昭和へと至る時代の移り変わりを、大雑把に「混乱期」から「発展期」、そして「安定期」への移行と捉えると、終戦から今日までの流れも同じように映る。漠然とした見方ではあるが、ここで言う安定期が今日の日本、そして約一〇〇年前の日本に相当する。

本書では、「安定期」という同じ歴史的局所にあたる二つの時代を対比させながら、現在の日本が抱えるさまざまな課題について考えていく。その手掛かりとして用いたのが、一〇〇年前の論者が遺した言葉である。彼らの言葉は一〇〇年後を生きた我々を意識して述べられたものではないが、本書ではそれらを現代人に向けたメッセージとして読み取っていく。そして、その言葉が発せられた当時の時代背景を現在に重ね合わせながら、各テーマについて考察していく。

さらに、この一〇〇年で何が変わり、何が変わっていないのか。その変化はなぜ起きたのか、あるいはなぜ変化しなかったのか。そうした時代の推移にも着目することで、先人らの言葉をより価値あるものとして蘇生させていく。本書を読むことで、現代日本をより立体的に捉えるための重要な視点を獲得することができる。(おおくら・ゆきひろ)

ISBN 978-4-9948-1135-6 10月刊
四六並製 二六八頁 予二〇〇〇円

大倉幸宏の本
好評既刊

「昔はよかった」と言うけれど
(戦前のマナー・モラルから考える) 二〇〇〇円

「衣食足りて礼節を知る」は誤りか
(戦後のマナー・モラルから考える) 二〇〇〇円

著者 1972年愛知県生まれ。新聞社、広告制作会社等を経て、現在はフリーランスのライター。著書に「衣食足りて礼節を知る」は誤りか——戦後のマナー・モラルから考える、「昔はよかった」と言うけれど——戦前のマナー・モラルから考える」など。

巧妙な偽電詐欺
学生の親から金を取り
四千五百圓を稼ぐ
「振り込め詐欺」は昔からあった。電報を濫用した詐欺事件を報じた1926年1月20日付「讀賣新聞」記事



フランク諸王の一人キルベリクス1世(右)と対話するトゥールのグレゴリウス(14世紀の彩写本『シャルル5世のフランス大年代記』より)

草創期ヨーロッパ世界を知る上で不可欠の歴史書、読み物としての魅力を味わい尽くす待望の定訳新訂版!

新訂

フランク史 一〇巻の歴史

トゥールのグレゴリウス／杉本正俊 訳

◆ジャンル:ラテン文学/西洋史

ヨーロッパの「歴史」は、ヘロドトス以来、時代の個性、雰囲気豊かに表現し、文学としてもそれなりの質と量を誇る一ジャンルを形成していた。今日の歴史書は、実証的側面が決定的に重要な「歴史学」の産物となり、読物としての「おもしろさ」の方は「文学」という別のジャンルにゆだねてしまった観がある。しかしわれわれは、かつて「歴史」がそのオリジンにおいて「おもしろい読み物」でもあったことを忘れてはなるまい。ローマ帝国滅亡以来一世紀、混沌としたガリアの地に政治的統一をもたらしつつあったのはゲルマン人の一派、フランク人であった。この治安の悪い不安定な時代、おびただしい人物を登場させて自分の生きた社会を活写したひとりの歴史作家がいた。自らトゥールの司教としてフランク諸王からも一目おかれたグレゴリウスである。

古来「フランク史」の名で知られた彼の書物は、六世紀のガリアを、従って草創期のヨーロッパを知る最も重要な資料として今日の「歴史学」の宝庫と言つてよい存在なのであるが、一九世紀までは

多くの愛好家を魅了してやまない、「フランス文学史」の中に確固たる地位を占める名作のひとつと見做されていた。

その独自の魅力を日本の読者に伝えたい思いから本書を翻訳出版して以来既に十年以上の時間が経った。今回新訂を機に久しぶりに全文を読み返し、スピード感あふれるグレゴリウスの筆力、登場人物たちの要点を捉えた会話の迫力に、訳者は以前同様、圧倒された。作者自ら「田舎臭い」と呼ぶ彼の作品は、ギリシア・ローマの古典とは異なつた時代の個性をしっかりと表現している。

「歴史」と「物語」がかつて一体のものであったことは洋の東西を問わない。本書がヨーロッパを知る上で必須不可欠の書物であるとの認識が日本でも広まることは訳者の大きな喜びである。新訂に当たり誤記を改め、若干の表現に変更を加えた。

(すぎもと・まさとし)

ISBN 978-4-7918-1341-9 10月刊
A5上製 六三二頁 六五〇〇円

好評刊
アエネーイダス

ウェルギリウス／杉本正俊訳

五五〇〇円

●気高きローマの志操 胸に迫る永遠の名作

作者 Gregorius Episcopus Turonensis (538-594) 573年以降終生トゥールの司教をつとめる。作者の生きた時代を活写した本書は、各国史開始以前の西洋世界を知るための随一の書とされる。訳者 1949年生。早稲田大学大学院でドイツ文学を学び、複数大学でドイツ語を教える。



野や森がイマジネーション次第で姿を変える。枯れ沼を海に見立てて「海賊ごっこ」

野外教育の理論と実践をこの1冊で!子どもたちに自然の中で遊び、学んでほしいと願うすべての大人におくる最良のガイド

スウェーデンにおける 野外保育のすべて

「森のムツレ教室」を取り入れた保育実践

エーバ・エングゴード／高見幸子・光橋 翠 訳

◆ジャンル:幼児教育・保育／環境教育

森の国スウェーデンは環境先進国としても知られている。それゆえ、この国の子どもたちは、誰もが森で遊び、自然に親しんで育つと思われているのではないだろうか。しかしながら現代スウェーデンの大人たちは、自然の中で過ごすことが子どもの心身の発達によいと考えているにもかかわらず、子どもたちが自然とのコンタクトを失いつつあると思っている。その理由は以下の三つである。①都市化に伴い、近隣に緑地がなくなった。②大人が監視できない状態で子どもが遊ぶことは危険だと考えられている。③テレビやコンピュータなどの普及。

このような傾向に歯止めをかけるにはどうしたらよいのだろうか。著者のエングゴード氏は、現在を生きる子どもが自然とかかわるためには、大人のあり方が大きく影響してくると思う。一九〇〇年代には子どもに簡単に伝えられていたことが、二〇〇〇年代では熱意のある大人でないと伝えることができなくなったというのだ。

著者は、スウェーデンで六〇年前から人気を誇る自然環境教育プログラム「森のムツレ教室」の考えを基盤にして、三〇年前に開発された「雨の日も晴れの日

も野外就学前学校」の保育実践を研究し、スウェーデン社会に対して解決策を提案している。日本においても、子どもの自然とのコンタクトがますます減少する状況にある。その一方でこの現状を変えようとする大人も増え、「森のムツレ教室」や「森のようちえん」の活動が盛んにもなってきた。なぜ野外教育が必要なのか」という理論と、「では、どうすればよいのか」という実践の両方を紹介している本書は、日本でこれらの活動をさらに広めるうえで大きな助けとなるだろう。子どもたちを自然環境に誘いたいと思っている保育者だけでなく、保護者や行政の人たちをはじめとする多くの大人に読んでいただき、本書に書かれていることを実践・検証していただければと思う。(たかみ・さちこ ナチュラル・ステップ・ジャパン代表)

ISBN 978-4-7918-1196-3 10月刊

四六並製 三〇八頁 予二四〇〇円

幼児のための環境教育

スウェーデンからの贈りもの「森のムツレ教室」

同部収録

二〇〇〇円

好評刊

スウェーデンの持続可能なまちづくり
(ナチュラル・ステップが導く「ムツレ」改革)

S・ジーン・ス・トラッサー／高見幸子 監訳 編著
二五〇〇円

著者 Eva ÄNGGÅRD ストックホルム大学准教授。大学の「子どもとユース学術研究所」勤務。
「1 Ur och Skur (雨の日も晴れの日) 野外就学前学校」の子どもたちを対象に、二つの異なった研究プロジェクトに取り組んでいる。どちらの研究も、自然環境における遊びと活動にフォーカスしている。

良いスウェーデン、悪いスウェーデン

P・ラバチオリ／鈴木賢志訳

「ポスト真実の時代における国家ブランド戦争」280字のつぶやきを武器とする戦争が始まった!? 四六並製 二五六頁 二二〇〇円

好評刊

ISBN978-4-7948-1130-1



ソビエト・ミルク

N・イクステナ／黒沢 歩訳

「ラトヴィア母娘の記憶」ソ連体制下で生きて自由を求めた母娘の行く末は……。ラトヴィア文学の傑作! 四六並製 二八〇頁 二〇〇〇円

最新刊

ISBN978-4-7948-1133-2



スウェーデンの小学校社会科の教科書を読む

「4刷出来」

早稲田大学経済学・経営学 教授 鈴木賢志 訳
「日本の大学生は何を感じたのか」投票率85・8%の国では、小学校社会科で何を教えているのか!? 四六並製 二八〇頁 一八〇〇円

久米宏氏、座間宮レイ氏絶賛

ISBN978-4-7948-1056-4



ノルウェーのサメ学校に見る先住民族の文化伝承

長谷川 紀子

「ハットフェルダル・サメ学校のユニークな教育」次世代に継承される「トナカイと共に生きる文化」。A5上製 三三六頁 三〇〇〇円

好評刊

ISBN978-4-7948-1128-8



教育のプロがすすめる選択する学び

M・エンダーソン／吉田新一郎訳

「教師の指導も、生徒の意欲も向上」能動的な学び手「アクティブ・ラーナー」を育てる選択する授業革新。四六並製 三八四頁 二五〇〇円

好評刊

ISBN978-4-7948-1127-1



教育のプロがすすめるイノベーション

G・クロス／白鳥信義・吉田新一郎訳

「学校の学びが変わる」読む者に行動を起こさせる卓抜なヒントに満ちた「学校づくり」のバイブル。四六並製 二七八頁 二七〇〇円

好評刊

ISBN978-4-7948-1129-5



梅根悟

中野 光

「その生涯」と「梅根の前に梅根なし、梅根の後に梅根なし」と言われた教育界の巨人の決定版評伝! 四六並製 二四四頁 二二〇〇円

「西日本新聞」他書評

ISBN978-4-7948-1116-5



宿題をハックする

CS・ハミルトン／高瀬裕人・吉田新一郎訳

「学校外でも学びを促進する10の方法」教師と子どもが笑顔になる「家庭学習」で、学びの意味をとりもどそう! 四六並製 三〇四頁 二四〇〇円

好評刊

ISBN978-4-7948-1122-6



地球に降り立つ

B・ラトゥール／川村久美子訳・解題
 「新気候体制を生き抜くための政治」
 バリ気候協定後の世界とトランプ現象の根幹をどう理解し、思考の共有を図るべきか。名著「虚構の

「近代」著者からのメッセージ！

ISBN978-4-7948-1123-5 近刊

四六上製 予二〇八頁 予三三〇〇円

著者 Bruno Latour (一九四七) フランスの社会学者、哲学者、アクター・ネットワーク論者として著名。パリ政治学院の政治学博士プログラムメディエアラボの主任。著名教授、ドイツのカルスルー工科大学教授。

黄昏の夜明け

P・ウィリアムズ 聞き手 S・ロンドンジェ／土屋 進訳
 「光速度社会の両義的現実と人類史の「今」」速度の政治経済学を提唱し、世界的危機の本源を解明。
 四六上製 二七二頁 二七〇〇円



ジハードと死

オリヴィエ・エロワ／辻 由美訳
 過激派の声を耳にすませ、20世紀末以降、欧米の若者たちを「死と暴力」に駆り立ててきたものの正体を剥出。
 四六並製 二二四頁 一八〇〇円

「朝日新聞」書評

ISBN978-4-7948-1124-0



黙示のエチュード

マニエル・ヤン
 「歴史的想像力の再生のために」破壊の予感を生き抜く力に変える。歴史社会学の異才、待望の第一論集！
 四六上製 二九六頁 二八〇〇円



喜びへの希望

J・ドリモア／西澤文昭・永見文雄訳
 西洋文明を刺激し続けた「幸福」
 天国の観の生成・解体・脱構築。心性史研究の金字塔三部作、堂々完結！
 A5上製 七二四頁 九〇〇〇円

「毎日新聞」書評

ISBN978-4-7948-1123-3



議論と翻訳

桑田禮彰
 「明治維新时期における知的環境の構築」
 現在の危機の本源は議論の劣化にある。議論環境の再構築へ！
 四六並製 五八〇頁 四八〇〇円

写真記録・三島由紀夫が書かなかった
近江絹糸人権争議

本田一成
 「絹とクミアイ」日本を震撼させた熾烈な労働争議の全貌を二〇〇点超の写真で再現！歴史の闘争が今甦る。
 A5並製 二五六頁 二四〇〇円

「朝日新聞」書評

ISBN978-4-7948-1118-9



メイド・イン・ツバメ

関 満博
 「金属製品の中小企業集積で世界に羽ばたく新潟県燕市」114事業所訪問、複合金属基地の産業大全。
 A5上製 六六四頁 八五〇〇円



吉田右子『オランダ公共図書館の挑戦——サービスを有料にするのはなぜか?』

一人一人の手で公共を

■評者 野末たく二(出版社 結エディット代表)

ここ2カ月、図書館に関連する本と映画に接した。吉田右子著『オランダ公共図書館の挑戦』(新評論)、フレデリック・ワイズマン監督『ニューヨーク公共図書館』だ。

吉田さんは、筑波大学図書館情報メディア系教授。ワイズマン監督は米国人ドキュメンタリー作家で89歳! 上映時間3時間25分の『ニューヨーク公共図書館』は解説の字幕を一切排して、静かに物事を考えるのに良く、むしろ本を読むのに近い。

二つの共通はタイトルから分かるように「公共」だ。

現在、日本の、特に地方の「公立」図書館は岐路に立つ。自治体予算が逼迫し、指定管理者制度で民間委託する動きが主流だ。これに対する私見は昨年この欄で書いた。ない袖は振れないのは道理だが、利用率を上げるためのカフェ併設が、本当に市民が求める図書館サービスなのか? なぜここまで図書館がないがしろにされるのか? 問いに対する答えが「公共」と「公立」の違いにある。「公共」も「公立」も、英語はpublic(パブリック)だが、誰のためという対象を指す「公共」と、予算、人事などの運営主体(自治体)を指す「公立」では意味も内容も異なる。

例えばオランダ公共図書館は年会費制、つまり有料だ。子どもは無料だが、基本は年額の年会費制。なぜか。それは「公共」だから。「有料なんて! けしからん!」「自治体予算が厳しくなったから、有料にしたんだろ」と思われるかもしれないが、そんな生半可なことではないようだ。

20世紀初頭に「共同体の私的な読書施設」として始まったオランダの公共図書館は、会員の会費で運営されてきた。会費は自治体から運営を移管された財団の自主財源となり、予算に占める割合は15%

『茨城新聞』2019年8月3日

にもなる。ただ、オランダでも自治体の予算が厳しく、図書館の閉館が社会問題化しているようだが、基本は「公共」「公立」でなく、「公共」だからこそpublicを担う多様な一人一人の市民へのサービスを提供すべきという考えに立つ。

ではニューヨーク公共図書館はどうか。当然サービスは無料だが、運営は独立法人として、市の出資と、カーネギー財団を筆頭に民間出資による。淡々と展開する映画で繰り返される印象的なシーンが、館長をはじめ図書館スタッフによる会議だ。自分たちが目指す図書館を実現するためにいくら予算が必要で、企業からこれだけ出資を募れば、市にプレッシャーをかけられるぞ! なんて生々しい会話が交わされる。会議は誰もが遠慮することなく平等に発言する。公共図書館とは何かを理解し、時代の要請としてこうあるべしというビジョンを共有しているから

未来に向けた戦略を語れる。

オランダでもニューヨークでも、図書館は必要な情報を提供する「知の源泉」という位置付けで一致する。紙に限らず情報を得るためにインターネットにつながることに、貧しさから抜け出すために教育を受けられること。図書館司書とはこうした情報を検索し、提供する専門家で、だからこそ地位に値する保障がなされる(最近、最低賃金を下回る図書館司書のバイト求人を見つけ愕然とした)。

「知の源泉」としての図書館を現すために、市民の側が自治体に何かを要望、おねだりするのでなく、本来、市民の手のうちにあるべき公共をどう生み出すか、むしろ私たち市民の姿勢に問題があるのかとも思えてきた。そもそも日本語の「公共」の概念は新しい。私たちの血と、肉とするためにはまだまだ議論が必要だ。

四六上製 二七二頁 2500円

『読売新聞』他紹介

ISBN978-4-7948-1102-8



えっ! 公共図書館が有料? そこには深い理由があった。図書館カードさえあれば借書できるから

本を売る

人の縁も本の縁

洋書専門店勤務の私になぜ執筆依頼が来たのか甚だ疑問ですが、「この本、売れます」とは言えても、「お勧めですよ」とはナカナカ言えない控えめな書店員です。20年近く前、突然の米国シアトル店出向が店売業務の始まりでした。ずーっと英語で話し続ける日本人のお婆ちゃんが探していたのがNHKの趣味系講座のテキストだったり、こちらの背筋が正されるような品のある日本語を話す日本語世代のコリアンの老紳士が毎月の「文藝春秋」を楽しみにしていたりと、異国にあつて自分の母語で書かれた本が読めることがどれほど心の糧になるものか、思い知らされました。

永住を決めている日本人も、子供には少しでも日本語が出来て欲しいと思うもののように、手狭な絵本・児童書売場はいつもギョウギョウ。私に子はあませんが、運営委員もしていた日本語補習校の蔵書拡充では日本の店舗のデータも借りながら、休日返上で喜んで貰えそうな本の選書に心血を注ぎました。

若者たちは英訳マンガと一緒に日本語の学習書を買って行きます。学習書の脇に積んだ五味太郎さんの日英対訳「日本語擬態語辞典」が飛ぶように売れたのでした。どうやら仕掛けて売り込んで、というよりも、色んなお客様の色んなニーズに耳傾けて地道に品揃えして行く、という方が向いているようで、帰国後の和書の仕入・販売でもそれは変わっていません。その方が自分でも思いがけなく世界に出逢えて楽しいんですね、多分、洋書専門店開店に当たっては、絵本・児童書、料理・健康本、及び日本語学習書を拡充し、日本に住む外国人の方々もホッと安心できる場所になりたいと思いました。途半ばながら、少しずつ受け入れられているように感じています。そう、最近判明した事実。本好きで流暢な英語と日本語で接客してくれている当店の学生スタッフのうち2名が何と私がいた当時のシアトルの日本語補習校の生徒だったのでした。本の縁を感じます。

紀伊國屋書店

Books Kinokuniya Tokyo

舟木幹男

本誌表示価格はすべて税抜です。

●書評 ●紹介 ●関連記事

書評日誌(6・15~7・28)

- 6・15 ③市報おおかわ(福岡県大川市)『筑後川まるごと博物館』
- 6・21 ④東京新聞『世界遺産マスターが語る高野山』(三品信)
- 6・30 ④西日本新聞『筑後川まるごと博物館』(編者談)
- ⑤人文地理『「ニルスのふしぎな旅」と日本人』(吉水裕也)
- 6月号 ⑥書標『黙示のエチュード』(福岡聡)
- 6月 ⑥広報ひがしかわ『手のひらの小さな愛』
- ⑥労働の科学『写真記録・三島由紀夫が書かなかった近江絹糸人権争議』(奥井禮香)
- 7・1 ⑥スイスイ!ラクラク!読書感想文小学校3・4年生『新装合本 牙王物語』
- 7・10 ⑥先見労働管理『写真記録・三島由紀夫が書かなかった近江絹糸人権争議』
- 7・19 ⑥朝日新聞+朝日マリオン・

- コム『大事なことがはつきりするささやかな瞬間』(プレゼントコーナー)
- 7・20 ⑥図書新聞『黙示のエチュード』(森元斎)
- 7・28 ⑥サンデー毎日『スウェーデンの小学校社会科の教科書を読む』(なかにし礼)

9月の増刷

5刷出来

ISBN978-4-7948-0511-9



新大陸「発見」からグローバル化の現代まで、初学者向500年史の決定版!大好評ロングセラー。A5並製 二九六頁 三〇〇〇円

啓新概説ラテンアメリカ史 国本伊代

本を読む

ハムレットの大学

てつきりシェイクスピア論かと思いきや、読み進むと「マラルメの大学」ではないか!という驚き。現物のバラ窓を反転したような図柄の装丁が実に見事です。210頁に書かれているパリの二つの中心のひとつ、ノートルダム大聖堂の火災を目のあたりにして、様々な記憶を交錯させながら楽しめました。

(杉並区 山田 良)

梅根悟 その生涯とこと

主題と筆者を得てなされた切要なご本として拝読致しました。ほぼ忘れ去られている「巨人」について、ここまで書き込める方は他にいないものと存じます。いまこそ必要な出版と受け止めました。ますますの良質のご本を刊行して下さい。

(田川市 藤澤健一)

増補版 作家の時間

当方中学校教諭で、これまではテスト前に余った何時間かを「自習」に充てていました。しかし本

書に紹介されている実践を週に一回ペースで行うことで、そうした時間を有効に使えるそうです。小学校だけでなく、中・高の実践も掲載していただいたお陰で、「実際に授業でやってみよう」と思えました。

(長岡市 教員 上山晃平 23歳)

野球母ちゃん

あちやんが、これでもか!これでもか!と我が子に一生懸命、力を注ぐさまが、とてもユーモラスに綴られていて、ついつい引き込まれてしまった。一夜で読了した後、心にひっかかった箇所を読み返し、人生の表・裏舞台を自分の人生に重ね合わせています。

(浜松市 坂本貞夫 70歳)

好評刊

ハムレットの大学

岡山 茂 二六〇〇円

増補版 作家の時間

「書く」ことが好きな方、学ぶ方、実践者の方、プロジェクティブ・ライティング 二二〇〇円

野球母ちゃん

そのパワー・ゆるやかなれ! 一八〇〇円

編集部から

大好評の前二著「昔はよかった」と言うけれど、「衣食足りて礼節を知る」は誤りか?で池上彰氏はじめ識者の絶賛を浴びた、「日本人のモラル・マナーの変遷」を検証するシリーズ、待望の新刊です!「100年前から見た21世紀の日本」、今度は大正時代の人たちの声に耳を傾けます。「最古の対話体小説、こなたな訳文でとても読みやすい」「六世紀ヨーロッパ人のメンタリティーがわかる唯一の書」「地図・家系図・年表が便利」初版で熱い支持をいただいたながら長期品切れとなっていた「フランク史」が、訳者による丹念な推敲・校訂を経て新訂版として復活します。同じく杉本訳・ウエルギリウス「アエネイス」も、古典名訳として多くの愛読者を獲得しています。ぜひ併せて一読下さい。

営業部から

▼直近3ヶ月のアマゾンでの弊社書籍売上ベスト15をご紹介します!

- ① たった一つを変えるだけ
- ② スウェーデンの小学校社会科の教科書を読む
- ③ 宿題をハックする
- ④ AO・推薦入試の黄本
- ⑤ 最高の授業
- ⑥ 成績をハックする
- ⑦ 教科書では学べない数学的思考
- ⑧ 菜食への疑問に答える13章
- ⑨ あなた自身の社会
- ⑩ 20代で身につけたい働き方の基本
- ⑪ 野球母ちゃん
- ⑫ ギヴアー 記憶を注ぐ者
- ⑬ 虚構の「近代」
- ⑭ 11の子どもの家
- ⑮ 「学びの責任」は誰にあるのか

SBC(新評論ブッククラブ)のご案内

当クラブ(一九九九年発足)は入会金・年会費なしで、会員の方々に弊社の出版活動内容を紹介する月刊P.R誌「新評論」を定期的にこの価格で送付しております。入会登録後、弊社商品に添付された読者アンケートハガキを累計5枚お送りいただくことで、全商品の中からご希望の本を1冊無料進呈する特典もございます。ご入会希望の方は小社HPフォームからお送りいただくか、メールまたはハガキにて、お名前、郵便番号、ご住所、電話番号を明記のうえ、弊社宛にお申し込みください。折り返し、SBC発行の「入会確認証」をお送りいたします。